

日本 ALS 協会 宮城県支部  
支部長 岡本 和幸 様

日本 ALS 協会宮城県支部  
2025 年度支部総会開催にあたって

この度は支部総会のご盛会、誠にありがとうございます。

さて、日本 ALS 協会は来年、設立 40 周年の節目を迎えます。我々は過去の日本 ALS 協会の活動の元に生活をしています。未来においても ALS が治る病気になるその日まで日本 ALS 協会は活動を続ける必要があります。それが先人の努力に報いることだと私は思います。

今年度の日本 ALS 協会の重点課題に後継者の育成と外部協力者を増やすことを盛り込みました。我々は常に新しい仲間を求めています。ここ数年で石川県支部と近畿ブロックが休会という形を取りましたが、新たな仲間が支部再開に動いてくれています。とても頼もしく感じます。他にも執行部が刷新された支部もあります。

40 年前、私は 7 歳でした。今も設立メンバーが日本 ALS 協会に関わってくれています。それは物凄くありがたく尊いことですが、そろそろその思いを引き継ぐ必要性を感じます。ALS との戦いはまだしばらくは終わりそうにありません。それに対して ALS の治療薬や療養環境にはまだまだ課題が山積しています。地方特有の課題もちろんです。

私自身は日本 ALS 協会を通して多くの先輩患者や支援者と出会いました。今私が生きているのは日本 ALS 協会のおかげと言っても過言ではありません。私は恩返しと日本 ALS 協会が未来においても活動を継続出来

る組織にするために会長職を担わせてもらっています。本部も支部も偏った人に負担がかかっています。総会の場だからこそ敢えて申し上げます。我々は新たな仲間を求めています。みなさん日々の生活で手一杯なのは承知の上でお願いです。日本 ALS 協会の活動に積極的に関わってください。やる気さえあれば大歓迎です。何卒よろしくお願い致します。

令和7年7月吉日

一般社団法人日本 ALS 協会

会長 恩田聖敬(おんださとし)